



学校だより はんたまし



今年の夏休みは三十二日間

暑い日が続き、本格的な夏の到来です。子どもたちは、毎日、学習や運動に元気に取り組んでいます。しかし、暑さが厳しくなると熱中症も心配されます。十分な水分補給、睡眠、休息を取るなど健康・体調管理には、十分気を付けて頂きたいと思えます。

六月二十二日、全校児童が体育館に集まり「平和集会」を開催しました。長嶺一男さんをお招きして、この西原坂田地区での恐怖と残酷に満ちた悲しい光景についてのお話を聞いて、戦争の悲惨さや悲しみを改めて感じました。戦争で亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、二度とこの悲惨な戦争が起きないように、全員で平和の歌を合唱して、永久の平和を祈りました。

さて、今年度の夏休みは、七月二十一日～八月二十一日までの三十二日間となりました。夏休みは、心身共に伸び伸びと自主的・自律的な生活を行い、豊かな心を養い社会性を身に付けて欲しいと願います。健康と安全に気をつけながら、計画を立てて楽しく充実した夏休みになるよう、次のことについて、ご家庭でのご協力を宜しくお願い致します。

- 夏休みの具体的目標を立てて自主的に計画的に過ごさせる
(例・毎朝6時に起きる。簡単な朝ご飯づくりや洗濯に挑戦。一日2、3時間の学習計画。読書10冊、日記等)
- これまでに学んだ教科の復習振り返りをしっかり行う。

豊かな心は、礼儀正しい行動から一学期前半終業を前に、子どもたちの生活態度も少しずつ育ってきました。各学年、各学級の平和学習での共通実践『履き物を揃える』を目標にして、自分の履き物を揃え、相手の履き物を揃えることが「優しさや思いやり」につながる「平和への第1歩」ということを学びました。いじめを生まない気持ちの良い社会を創る第一歩です。各学級での指導のおかげで靴箱やトイレがきれいに揃えられるようになりました。また、挨拶も含め礼儀正しい言葉遣いや行動の仕方についても励行し、さらに「豊かな心」を育ててまいります。ご家庭でも話題にして頂ければ幸いです。



子どもへの支援の基本

子どもが、生き生きと生活し、自立的に生きる基本は健康な生活づくりです。食事、睡眠、適度な運動、家で安心した生活が過ごせることが大切です。

特に大切なことは、子どもの気持ちの安定です。子どもが親から愛されているという実感を持つことが、肝要です。そのためには、親子の適度なスキンシップ、親子で本音で話し合えること、親子で楽しく活動・行動できることです。

教師や親は、子どもを受容的・共感的に接すると、子どもは自分を振り返りながら、気持ちが安定して、前へ進む意欲が出てきます。(改善する、目標を持つ、自分を高めていきたい等)

人を変える基本は、叱咤激励ではなく、愛情や感動を与え、共に共有することです。子どもを想う優しい気持ちが、何よりも大切なことです。

「縁あって」という言葉がありますが、これまでの子どもたちとの、たくさんの出会いを繰り返す中で、人と人の繋がりは、個人的な意思や希望を超えた、一つの深い「縁の力」が働いているのではないかと思います。縁あってこの世にうまれてきた繋がりを謙虚に喜びながら、感謝の気持ちを胸に、子どもに学んでいきたいと思えます。

坂田小6年生 150名、西原町住民の半数が犠牲になった沖縄戦を学ぶ

今から、78年前に、この西原地区一帯でも、戦争という恐ろしい出来事がありました。当時の激戦地であったこの西原坂田地区では、私たちが想像を絶するほどの恐怖と残酷に満ちた悲しい光景がありました。今日までに78年という、長い年月が流れましたが、今でも、沖縄戦で亡くなられた親族の方々、ご家族の方々の悲しみや無念さは今も、消えることはありません。

6月8日、6年生は、犠牲者が祀られた西原の塔を訪れ、全員が心ひとつにして平和メッセージ「願う平和から創る平和へ。命どう宝」を発信して戦争で亡くなった西原の人々のご冥福をお祈りいたしました。6年生は、戦争のない平和な世界の実現を誓い合いました。



あるTV局のインタビューに伊禮響さん、古賀しおりさんが、「私達が、どうやってみんなを大切にしていくかで、(世界が)変わるかもしれないので、みんなを大切にして、過ごしていきたいなと思えます」と話していました。私たちの身の回りから「小さな平和」を創り出すことの大切さを実感しました